

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)(一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00790

研究課題名(和文) 日本人大学生英語学習者による英語詩タイプ別の読解プロセスの研究

研究課題名(英文) A NIRS-Based Study on Japanese EFL University Learners' Literary Reading Processes for Different Poetry Text Types

研究代表者

西原 貴之(NISHIHARA, TAKAYUKI)

広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授

研究者番号：50469590

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、脳機能計測装置(島津製作所のLIGHTNIRS)を用いて、英語詩のタイプに応じた日本人大学生英語学習者の読解プロセスがどのように異なるのかを調べた。タイプ別の違いはほとんど見られなかったため(脳機能上の特徴は観察されなかった)、テキスト別の分析とした。その結果、読解時間の長い作品、テキスト理解確信度の低い作品、難しいと感じる作品は一致する傾向があった。調査参加者は作品解釈を行うにあたって様々な問いを生成したが、そのほとんどを自分自身で解決することができなかった。さらに、テキスト理解において、文法的な逸脱表現をはじめとして様々な表現に対して戸惑いを表明していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、日本人大学生英語学習者の英語詩読解プロセスの特徴をいくつか明らかにすることができた。例えば、語彙的にかなり簡単と考えられる英語詩であっても、その作品を解釈するには学習者は様々な表現に戸惑い、結果解釈を作り上げることが難しいことなどが明らかになった。文学教材を利用した英教育が様々な大学で実践されているが、学習者の実際の読解プロセスの特徴及びその中でつまずきについて予測を立てた上での実践が求められる。本研究の成果は、このような予見を行う上での知見を提供し、より効果的な教育実践を確立していくための一助として利用されることが期待される。

研究成果の概要(英文)：Using a brain-image technology device (Shimadzu's LIGHTNIRS), this study investigated how Japanese EFL university learners' reading process differs according to the types of English poetry. Since this study found few differences by poetry type (including brain function differences), most of the data analysis was conducted by poetry text. One of the main findings is that poems which took long reading time tend to be regarded as difficult with low understanding confidence. This study also showed that although participants generated a variety of questions in interpreting poetry texts, they were unable to solve most of them on their own. Furthermore, they expressed confusion about various linguistic expressions including grammatical deviations during the poetry understanding process.

研究分野：外国語教育

キーワード：英語詩読解プロセス 文学を使った英語教育研究 NIRS 読解時間 解釈 字義理解

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 西原貴之	4. 巻 6
2. 論文標題 日本人大学生英語学習者の文学作品読解時のつまずき	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JAILA Journal	6. 最初と最後の頁 26-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西原貴之	4. 巻 18
2. 論文標題 コミュニケーション英語、の教科書に掲載された文学教材の数とバリエーション及びその設問・言語活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 LET関西支部研究収録	6. 最初と最後の頁 19-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田安曇・寺西雅之・西原貴之・那須雅子	4. 巻 第9回
2. 論文標題 教育文体論を用いたライティング分析：日本人EFL学習者の母語と外国語習熟度の関連性を探る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JAILA第9回全国大会プロシーディングス	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西原貴之	4. 巻 第9回
2. 論文標題 日本人大学生英語学習者の文学的物語教材読解時のつまずき：誤答分析を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JAILA第9回全国大会プロシーディングス	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西原貴之	4. 巻 7
2. 論文標題 コミュニケーション英語 、 、 の文学教材に含まれる文法項目	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JAILA Journal	6. 最初と最後の頁 91-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takayuki NISHIHARA	4. 巻 8
2. 論文標題 Pursuit of Literary Competence: Past, Present, and Future	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JAILA Journal	6. 最初と最後の頁 77-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 吉田安曇・寺西雅之・西原貴之・那須雅子
2. 発表標題 教育文体論を用いたライティング分析：日本人EFL学習者の母語と外国語習熟度の関連性を探る
3. 学会等名 第9回日本国際教養学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西原貴之
2. 発表標題 日本人大学生英語学習者の文学的物語教材読解時のつまずき：誤答分析を通して
3. 学会等名 第9回日本国際教養学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Azumi YOSHIDA ・Masayuki TERANISHI ・Takayuki NISHIHARA ・Masako NASU
2. 発表標題 The Influence of L1 on L2 Proficiency: Stylistic Analysis of English Writings by Japanese EFL Learners
3. 学会等名 PALA (Poetics and Linguistics Association) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西原貴之
2. 発表標題 語彙的に簡単で短い英語詩は学習者にどう読まれるか：読解の難しさを中心とした考察
3. 学会等名 第46回全国英語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西原貴之
2. 発表標題 文学能力モデルに基づいた評価の有用性の検討：相関を用いた文学読解定期試験結果のベイズ推計による分析
3. 学会等名 第10回日本国際教養学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Azumi YOSHIDA ・Masayuki TERANISHI ・Takayuki NISHIHARA ・Masako NASU	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 26
3. 書名 Pedagogical stylistics in the 21st century (第14章)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

英語文学教材読解と第2言語習得の関係を探る
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/ntakayk/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------